

建築主：柏市  
 設計：株式会社INA新建築研究所  
 施工：関東・永岡特定建設工事共同企業体  
 + 椎名・助川特定建設工事共同企業体  
 所在地：柏市十倉二丁目348番地51 中央404街区1

地域に開き、発信する学校環境

## 柏市立柏の葉小学校



住宅地のスケールに合わせ連続する壁面を分節することで周囲への圧迫感を軽減した落ち着いた外観

近年、環境に配慮した建築の枕詞は「低炭素」あるいは「ゼロエミッション」に集約され、本来のサステイナブルな建築が目指していた、環境・社会・経済を統合する総合性が失われつつある。そして、建築を取り巻く周辺との関係性について熟慮した事例は少ない。柏市立柏の葉小学校は、そんな傾向の中にあって、「国際キャンパスタウン」を標榜する新たなまちづくりの先導プロジェクトとして位置付けられた。つまり、当初からその総合性が求められる条件が整っており、公立の学校建築として優等生的な答えが資料に垣間見られる。しかし、上位組織にあたるアーバンデザインセンター等とのやりとりに誠実に、そして創造的に対応した跡が随所に発見できることを高く評価したい。

決してこれみよがしの主張の強いデザインをまとった建築ではない。周到に計画された自然光や素材とのやりとりに心しながら、緩やかにつながる内部空間と中庭空間(スクールプラザ)の穏やかな連携、そして恵まれた立地環境を活かし周辺環境に開いたのびやかな関係性、そして巧みに選ばれた木質系の仕上げ材

や色彩・グラフィックの明るさ、やさしさは、ここで育まれる子供たちの将来に期待を抱かせる。さらに、近い将来隣接地に設置される中学校との連携によって、これから成長する同地域でのまちづくり、ひとづくりの核となることが期待される。

3.11以降顕在化した避難施設としての学校建築のあり方を先取りし、モデル的な施設構成や技術的対応がなされていることも評価されるべきである。今後、地域の人口の増加と共に児童数が増え、定常的な熟成を迎えた状況を見てみたい、そんな秀逸な小学校である。(岩村 和夫)



子どもたちの生き生きとした活動の舞台となるスクールプラザ



スクールプラザと連続した明るく開放的な木の温もりある多目的ホール